

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と取扱説明書の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※ 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

©パイオニア株式会社 2012

< KFWZF > < 12C00001 > < CRA4546-A >

作業の進めかた

①はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する 2

②接続のしかた

- 接続の前に知ってほしいこと 4
- 接続端子の名称と働き 6
- システムの接続 8
- 電源コードの接続 (1) 10
- 電源コードの接続 (2) 12
- リアモニターへの接続 14
- カメラユニットの接続 15

③取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと 16
- ナビゲーション本体の取り付け 17
- GPS アンテナの取り付け 20
- 音声認識用マイクの取り付け 21
- フィルムアンテナの取り付け 22

④接続・取り付けが終わったら

- 接続・取り付けの確認を行う 30
- カメラ設定を行う 33
- AUX 設定を行う 34
- リアモニター出力設定を行う 35
- センサー学習のエラーメッセージ 36

接続・取り付けが終わったら、必ず接続・取り付けの確認～リアモニター出力設定 (P. 30～35 ページ) を行ってください。

接続・取り付け部品を確認する

ナビゲーション本体関係



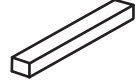
ナビゲーション本体× 1



バインドネジ
(M5) × 8

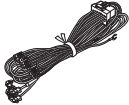


皿ネジ
(M5) × 8

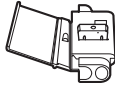


スペーサー× 1

接続ケーブル関係



電源コード× 1



U エlementコネクター
× 1



RCA 出力ケーブル
× 1

音声認識用マイク関係



音声認識用マイク× 1

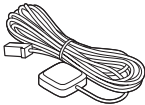


マイククリップ× 1



両面テープ
(15 mm × 12 mm) × 1

GPS アンテナ関係



GPS アンテナ× 1



金属シート× 1

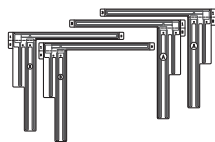


クランパー× 3

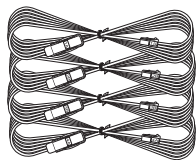


両面テープ× 1

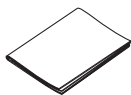
フィルムアンテナ関係



フィルムアンテナ
①・②各2



アンテナケーブル
1A・2B・3B・4A
各1



クリーナークロス×1



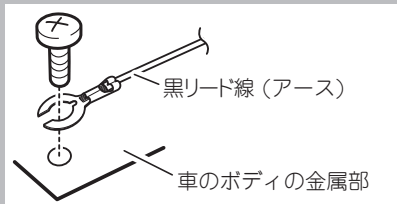
クランパー×6

接続の前に知ってほしいこと

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



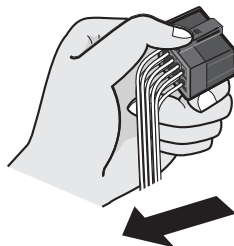
- 本機は、エンジンスイッチに ACC ポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けしないでください。取り付けたと、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗します。
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しないと一部の機能が使用できなくなります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けたとき、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。

- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- スピーカーのリード線をアースに接続したり、複数のスピーカーの（-）リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力 50 W 以上のハイパワー用で、インピーダンスが 4 Ω から 8 Ω のものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーやアンプの発火・発煙・破損の原因となります。
- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線（アンテナコントロール）を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

コネクターの脱着のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



例：電源コネクターの場合

接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 - * ビーコン受信機およびそのアンテナコードそれぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

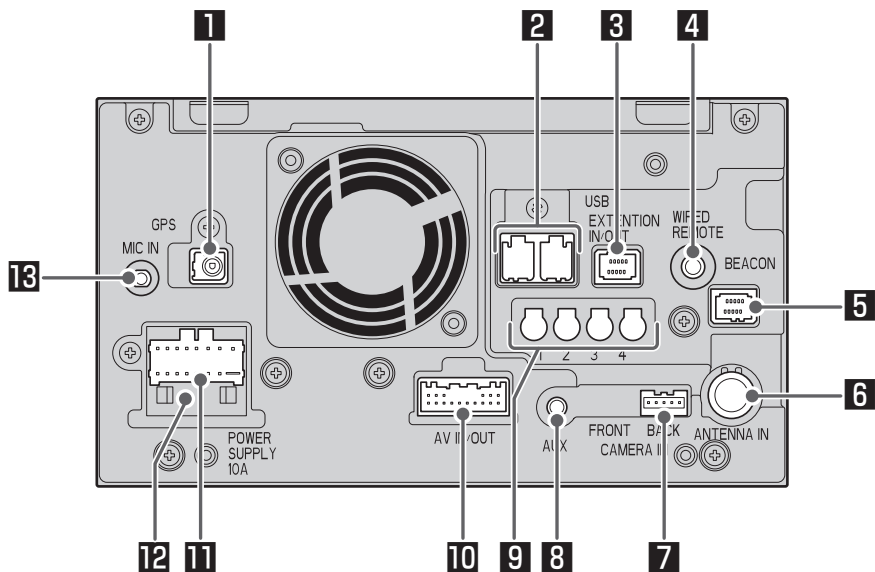
ピンクリード線の接続について

- ピンクリード線（車速信号入力）は、内蔵の3Dハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、測位誤差が大きくなる場合があります。
- ピンクリード線を車の車速検出回路に接続するのが困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」（別売）をお使いください。



接続端子の名称と働き

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



1 GPS アンテナ接続端子 (緑)

付属の GPS アンテナを接続します。
(8 ページ)

2 USB ケーブル接続端子 (茶)

別売 USB ケーブルを接続します。
(8 ～ 9 ページ)

3 拡張入出力端子 (黒)

別売の DSRC ユニットまたは ETC ユニットが接続できます。
(8 ページ)

4 ステアリングリモコンアダプター接続端子 (黒)

別売のステアリングリモコンアダプターが接続できます。
(8 ～ 9 ページ)

5 ビーコンユニット接続端子 (青)

別売の VICS 用ビーコンユニットが接続できます。
(8 ～ 9 ページ)

6 AM/FM/FM VICS 用アンテナ入力端子

車載のラジオ用アンテナを接続します。
(8 ページ)

7 バックカメラ接続端子 (黒)

別売のバックカメラユニットが接続できます。
(15 ページ)

8 AUX 入力端子 (黄)

VTR などの外部映像機器が接続できます。
(8 ～ 9 ページ)

9 フィルムアンテナ接続端子 (黒)

付属のフィルムアンテナ 1A、2B、3B、4A それぞれを接続します。
(8 ～ 9 ページ)

10 映像・音声出力端子 (黒)

付属の RCA 出力ケーブルを接続します。
(10 ～ 11、14 ページ)

11 電源端子 (黒)

付属の電源コードを接続します。
(10 ～ 13 ページ)

12 ヒューズ (10 A)

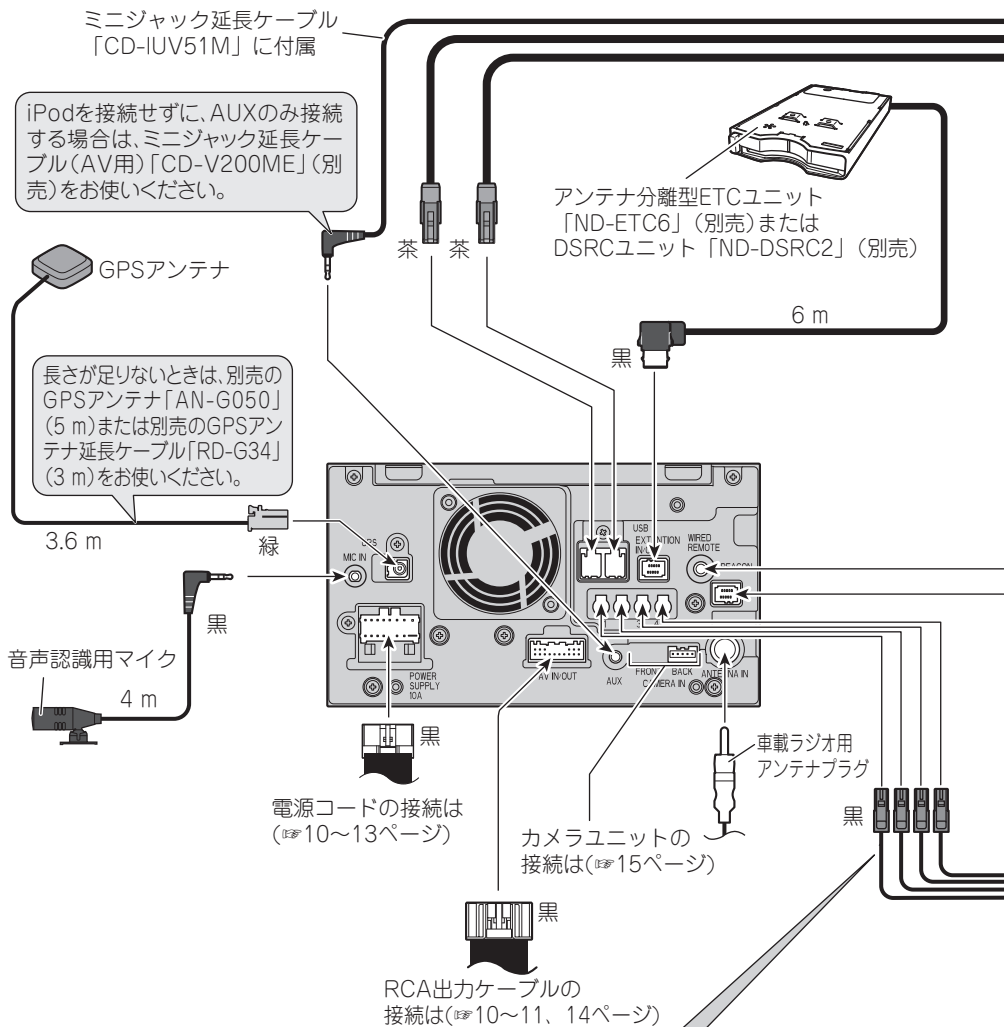
注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

13 音声認識用マイク入力端子 (黒)

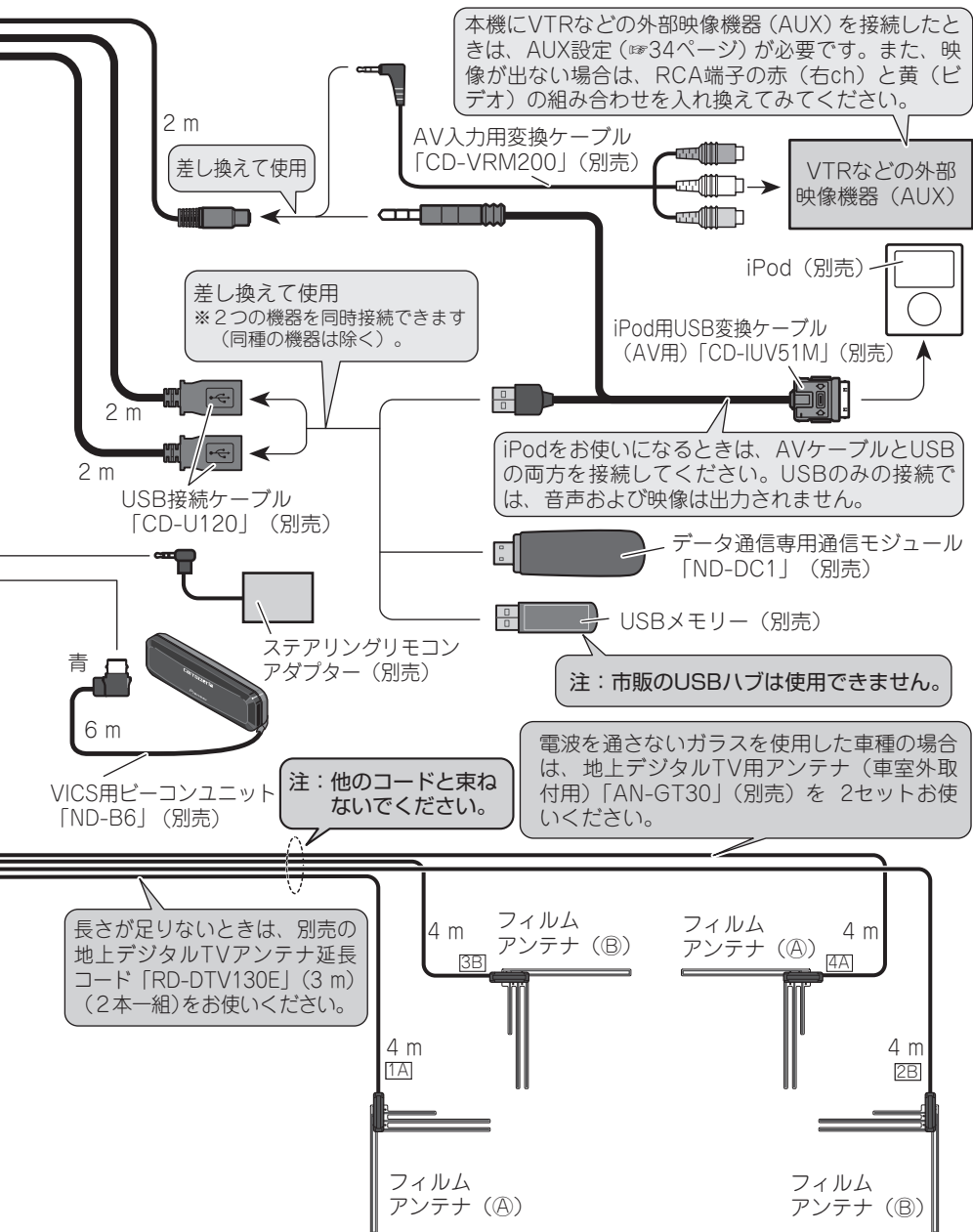
付属の音声認識用マイクを接続します。
(8 ページ)

システムの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



注：端子側面に記載された番号とナビゲーション本体に刻印された番号を確認し、必ず同じ番号どうしを4本とも接続してください。(1A→1、2B→2、3B→3、4A→4) 正しく接続しないと、本来の性能が得られません。

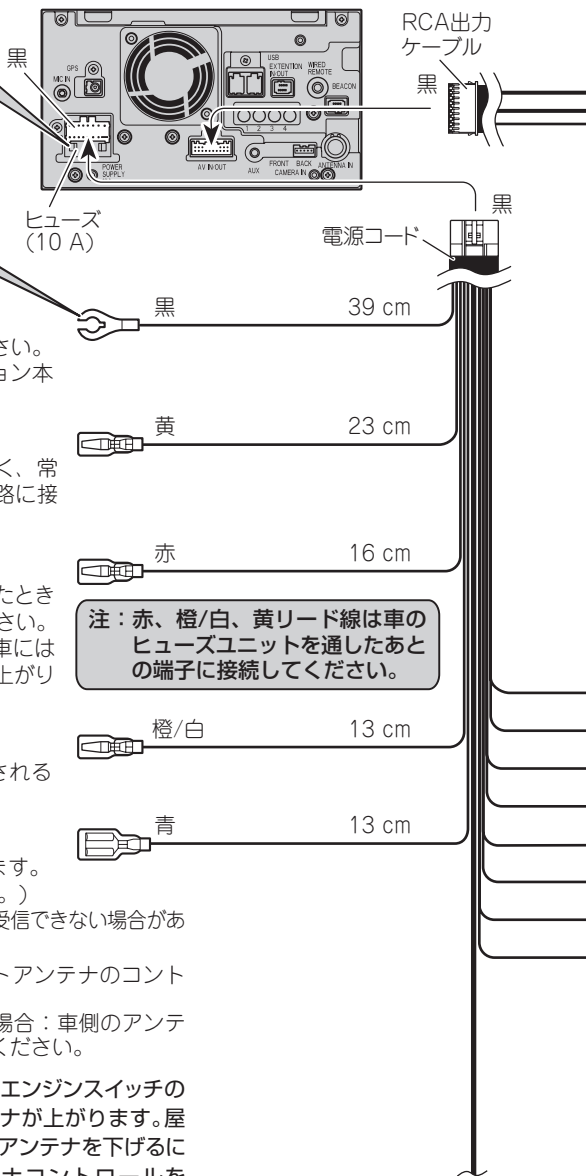


電源コードの接続 (1)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

注：製品の発煙・故障を防ぐために、黒リード線を必ずいちばん初めに接続してください。



アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

イルミ電源

車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。

(DC 12 V、300 mA以内でご使用ください。)

下記車両については未接続状態の場合ラジオが受信できない場合がありますので必ず接続してください。

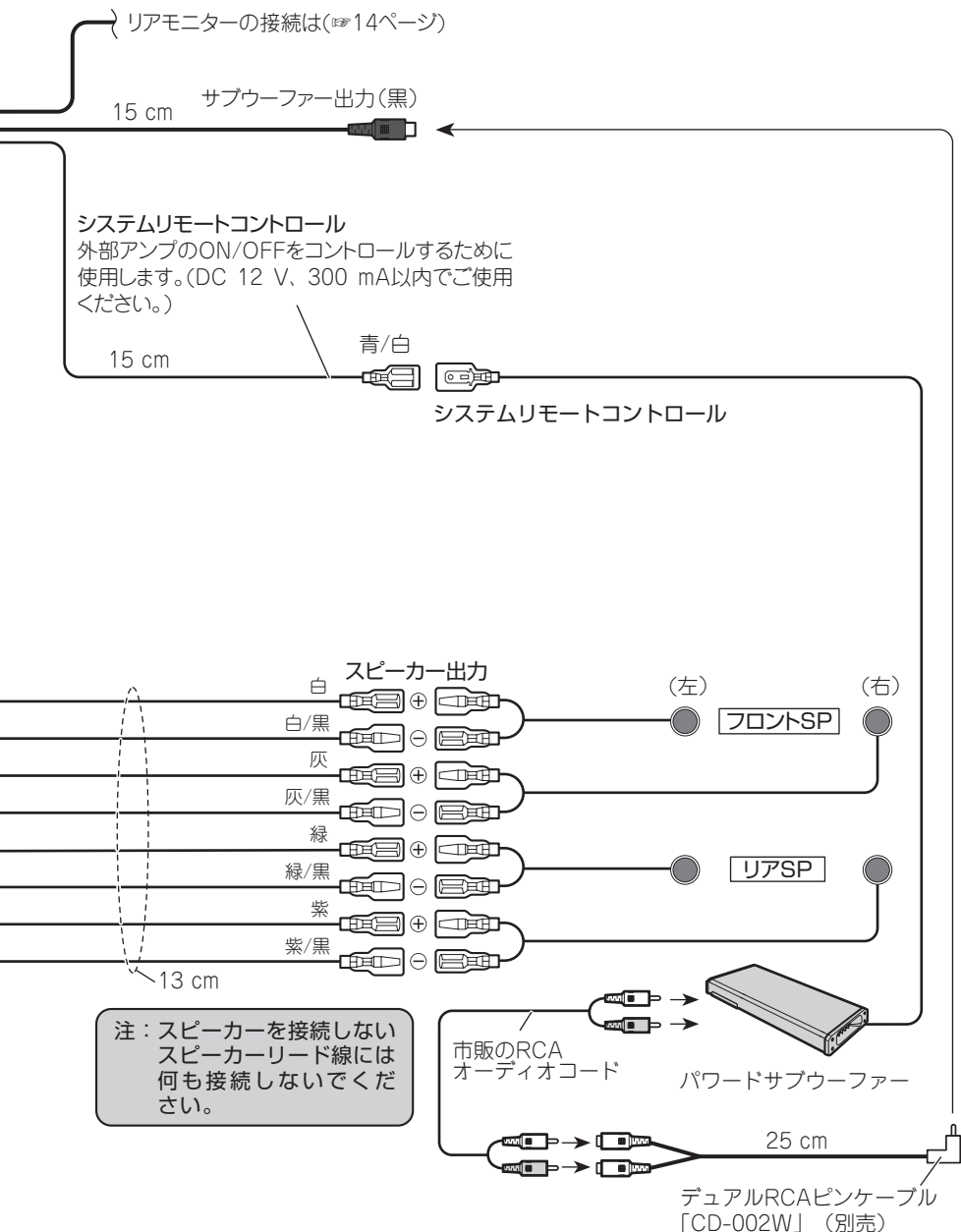
- オートアンテナ車の場合※：車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車の場合：車側のアンテナブースターの電源入力端子に接続してください。

※車載のアンテナがオートアンテナの場合、エンジンスイッチのON（本機の電源ON）に連動してアンテナが上がります。屋内ではご注意ください。立体駐車場などでアンテナを下げるには、あらかじめカスタムキーに「アンテナコントロールをON/OFFする」を割り当てておく必要があります。

(☞『取扱説明書』 - 「☞(カスタム) ボタンの操作」)

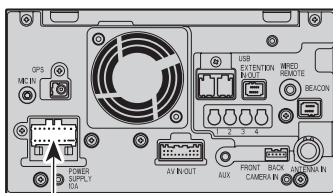
他のリード線の接続は

(☞12~13ページ)



電源コードの接続 (2)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



電源コード
黒

他のリード線の接続は
(10～11ページ)

バック信号入力

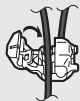
この接続は車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進/後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

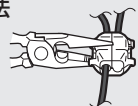
※別売のバックカメラユニットを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

紫/白 8 m

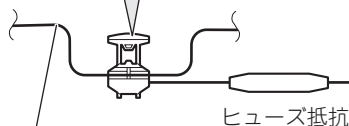
接続方法



バックランプの
リード線をはさ
み込む。



ラジオペンチで
強くはさむ。

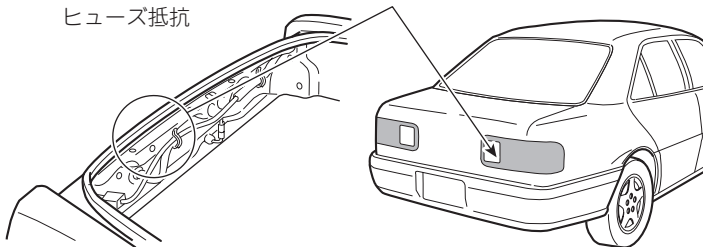


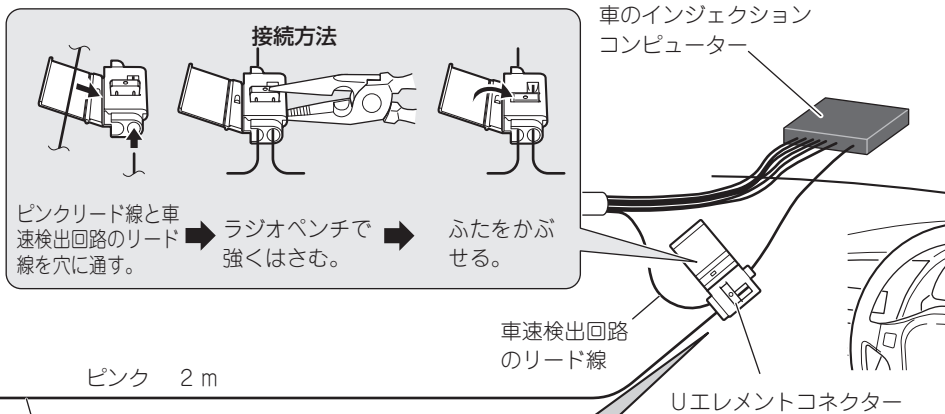
ヒューズ抵抗

バックランプの
リード線

注：電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

バックランプ(シフトレバーがリバース [R] のときに点灯するランプ)の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。





車速信号入力

車の走った距離を検出するために使用します。
必ず車の車速検出回路に接続してください。
 (車の車速検出回路への接続が困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)を接続することもできます。)

注：必ず付属のUエレメントコネクターを使用してください。指定以外の物を使用すると接触不良の原因となります。

インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

パーキングブレーキスイッチ

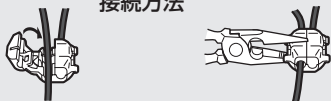
車が停車していることを確認するために使用します。必ずパーキングブレーキスイッチの+側リード線に接続してください。

若草色 2 m

パーキングブレーキスイッチ



接続方法



パーキングブレーキスイッチの+側リード線をはさみ込む。 → ラジオペンチで強くはさむ。

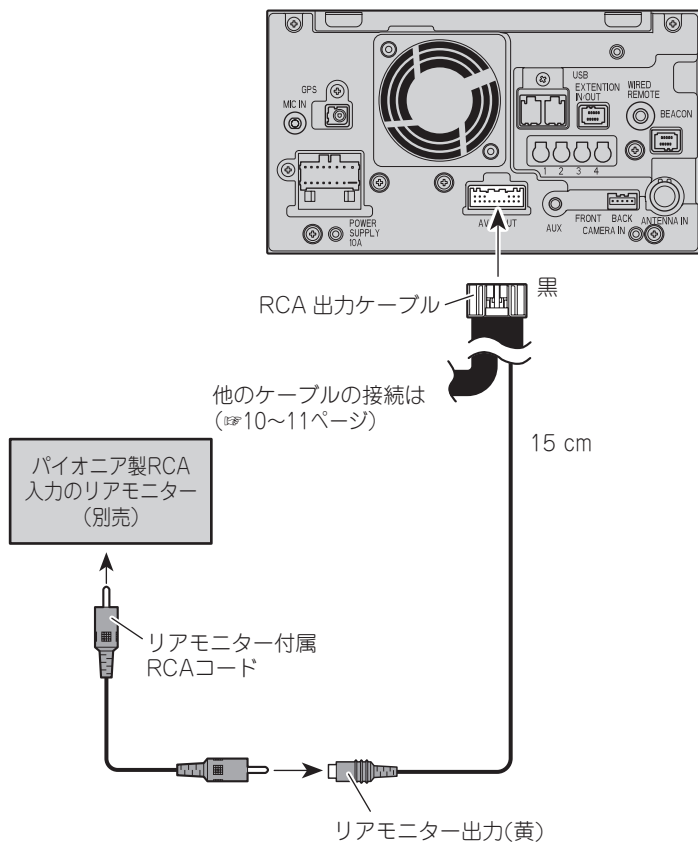
パーキングブレーキスイッチの位置は、車種によって異なります。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。



リアモニターの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、別売のパイオニア製 RCA 入力のリアモニターが接続できます。



⚠ 注意

- 接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができない位置に設置してください。
- パイオニア製「TVM-Wシリーズ」以外のモニターを接続した場合は画像が乱れる場合があります。また、フロントモニターに表示される映像と画質は異なります。
- 著作権保護された番組をビデオデッキなどで録画すると、著作権保護のための機能が働き、正しく録画できません。また、著作権保護の機能により、ビデオデッキを介してモニター出力した場合には、再生目的でも画質が劣化することがあります。これらは機器の問題ではありません。著作権保護された番組を視聴するときは、本機とリアモニターを直接接続してお楽しみください。

×モ

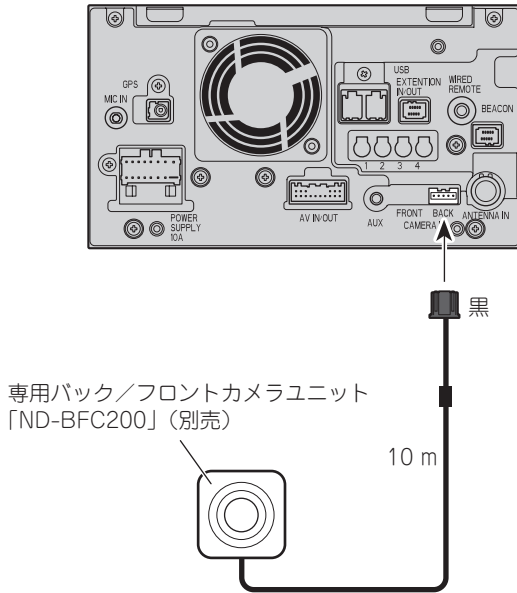
- 本機にリアモニターを接続したときは、リアモニター出力設定 (※35ページ) が必要です。



カメラユニットの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、別売の専用バック／フロントカメラユニット「ND-BFC200」が接続できます。



接続のしかた

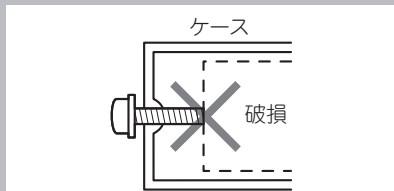
メモ

- 本機は、フロントカメラ機能には対応していません。
- バックカメラを接続するときは、バック信号入力線 (※ 12 ページ) の接続が必要です。また、車種によってはエンジンをかけると、シフトレバーをバックに切り換えなくてもバックカメラの画像が表示されることがあります。その場合は、「NAVI」を押してバックカメラの映像を解除し、カメラ設定の【バックカメラ切換極性】 (※ 33 ページ) で [LOW] を選んでください。
- カメラの表示モードなど、カメラ設定に関する詳しい説明は「ND-BFC200」の取扱説明書をご覧ください。
- 別売の汎用バックカメラユニット「ND-BC5」などを接続してお使いいただくこともできます。その場合、別売のカメラ端子変換コネクター「RD-C100」が必要です。また、カメラ設定 (※ 33 ページ) も必要です。

取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属のネジを使用して、指定どおりに取り付けてください。車種別取付キットに付属のネジや純正カーステレオを取り付けていたネジは使用できません。本機に付属以外のネジを使用すると、故障の原因となります。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態のよい位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

- 面ファスナーや両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

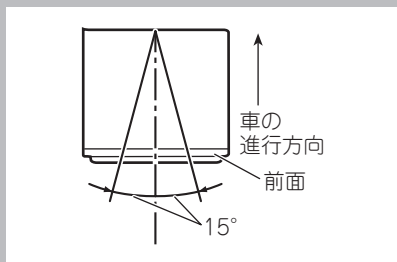
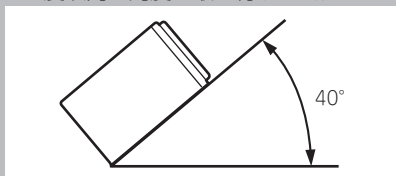
ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け（※22ページ）の説明に従って正しく取り付けてください。
- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 - * ビーコン受信機およびそのアンテナコード
 それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

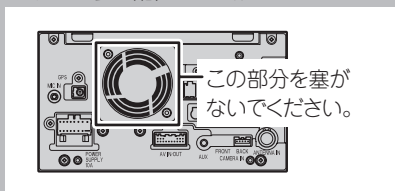
ナビゲーション本体の取り付け

取り付け上のご注意

- 本機の性能を十分に発揮するために、できるだけ水平に取り付けてください。また、取り付ける車両の特性上、取り付け角度が傾いてしまう場合は、水平に対して上の傾き 40 度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対してナビゲーション本体の前面が 15 度以内の角度で取り付けてください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して、指定どおりに取り付けてください。本機に付属のネジ以外を使用すると、故障の原因となります。
- 放熱を妨げないために、下図の部分のを塞がないように配置してください。



取り付けのポイント

取付キットを別売しています

- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「ADT-N979 II」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- ※ 本機に「ADT-N979 II」を使用する場合は、上部にすきまができるようにパネルを上方向に寄せて取り付けてください。パネルを固定する際は、左右のみテープ留めを行い、上下にはテープを貼らないでください。

- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意してありますので、販売店にご相談ください。

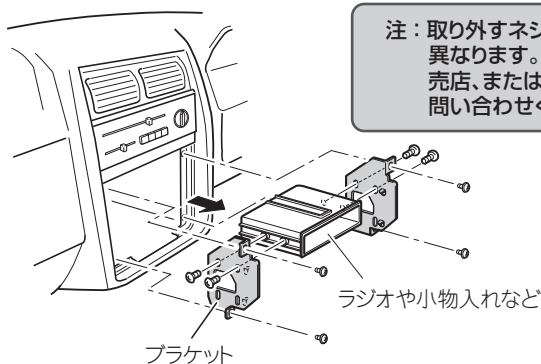


ナビゲーション本体の取り付け

つづき

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。

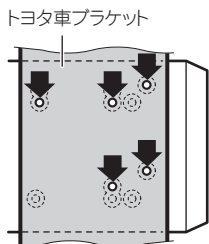


注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

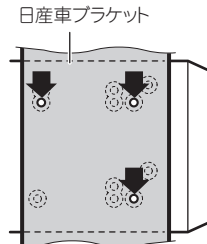
2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。次のネジ穴のうち4カ所または3カ所合う位置があります。

トヨタ車の場合

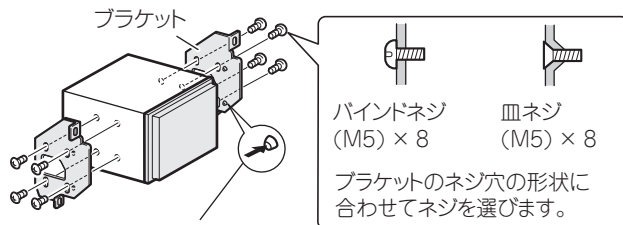


日産車の場合



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ4カ所（または3カ所）ずつ、付属のネジでネジ留めして、元どおり車に取り付けます。



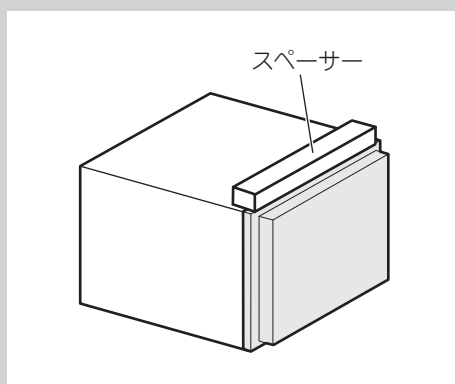
車両側のブラケットの凸部やツメが邪魔になり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

* 作業の際には安全に十分ご注意ください。

**注：付属のネジ以外は使用しないでください。
付属のネジよりも長いネジを使用すると、
本機内部の部品をいためることがあります。**

ナビゲーション本体取り付け後のご注意

ナビゲーション本体を取り付けたあと、車両との間にすきまがある場合は、ナビゲーション本体にスペーサーを貼ってすきまをふさいでください。なお、スペーサーを貼る手順は、車両によって異なります。



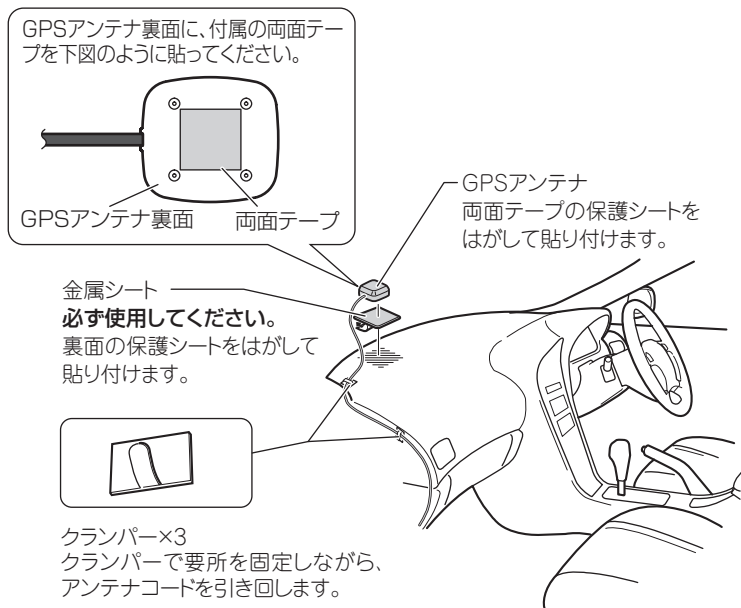
GPS アンテナの取り付け

取り付け上のご注意

- 付属の GPS アンテナは車室内取付専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売の GPS アンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5 m）をお使いください。
- GPSアンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPS アンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPS アンテナの取り付けには、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPS アンテナは、ナビゲーション本体から 30 cm 以上離して設置してください。また、余った GPS アンテナコードをまとめて置くとともに、ナビゲーション本体から 30 cm 以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。
- GPS アンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

取付例（ダッシュボード上）

車室内のなるべく水平な場所でアンテナがウィンドウの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPS アンテナを金属シートの上に貼り付けます。アンテナの取り付け位置は [接続状態画面] (P.30 ページ) を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。



音声認識用マイクの取り付け

取り付け上のご注意

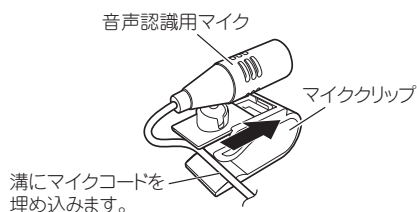
ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー（反響音）を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

サンバイザーにはさんで取り付ける場合

ステアリングポストに取り付ける場合

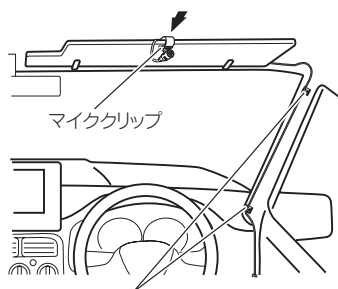
1 マイククリップにマイクを取り付ける

1 ステアリングポストにマイクを取り付ける



2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、正しく音声認識されません。

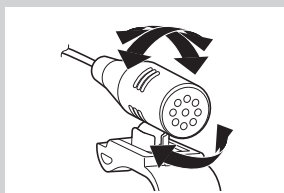


市販のクランパーなどで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイククリップの可動部を矢印の方向に動かして調節します。



フィルムアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

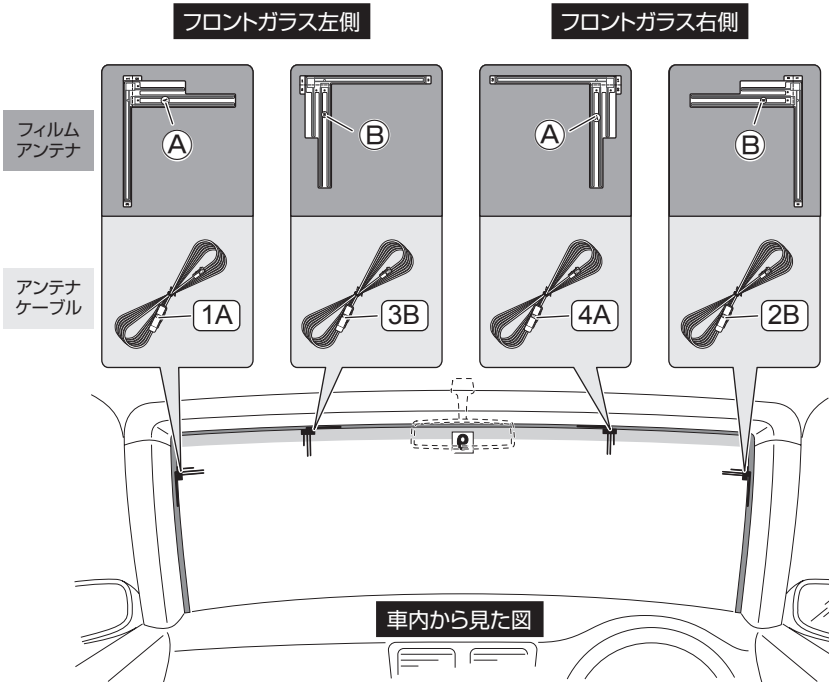
- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
- * 保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、平成15年9月26日付の運輸省(現、国土交通省)令第95号をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けないでください。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けないでください。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- 本書では、フィルムアンテナの取り付け前に車内の内張りを取り外すよう説明していますが、ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両の場合は、絶対にピラーを取り外さないでください。フロントエアバッグの誤動作などの原因となり大変危険です。ピラーを取り外さずにフィルムアンテナを取り付ける方法について、詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなることがありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテープなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮留めして、エレメントとアンプが貼り付けられることを確認してください。
- フィルムアンテナのフィルムやアンプの裏シートをはがしたあとは、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから10 cm以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる時は十分な曲げ角度(半径15 mm以上)を確保してください。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直してきません。必ずアンテナケーブルおよびフィルムアンテナを仮留めし、アンテナケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

貼り付け位置について

フィルムアンテナは、①、②の2種類、フィルムアンテナケーブルは1A、2B、3B、4Aの4種類があり、組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。それぞれを組み合わせ合わせて下記の位置に張り付けてください。



取り付けかた

フィルムアンテナの取り付け

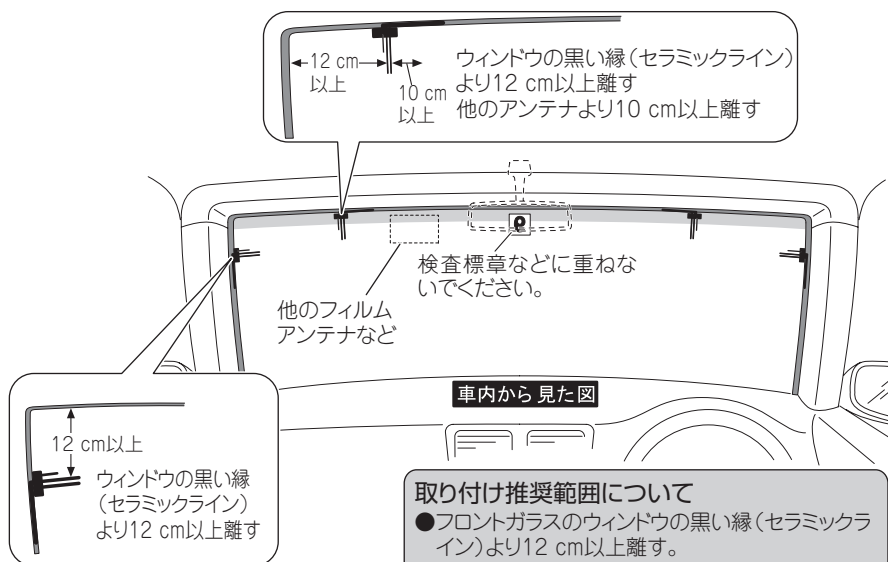
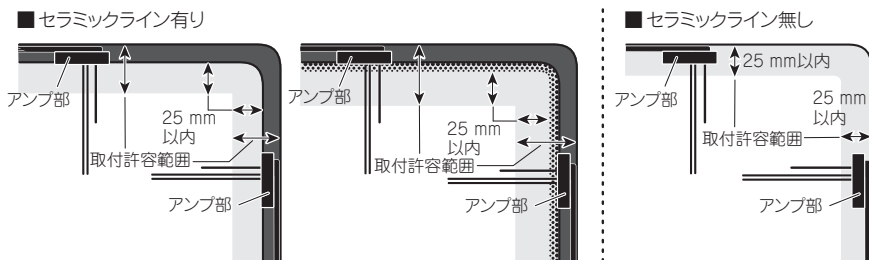
つづき

貼り付け位置について (つづき)

⚠️ 必ずお守りください

運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「アンブ部の貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲



取り付け推奨範囲について

- フロントガラスのウインドウの黒い縁(セラミックライン)より12 cm以上離す。
- 他のアンテナより10 cm以上離す。
- 同梱のフィルムアンテナ同士は1 cm以上離す。

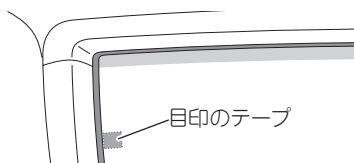
フィルムアンテナを貼り付ける

メモ

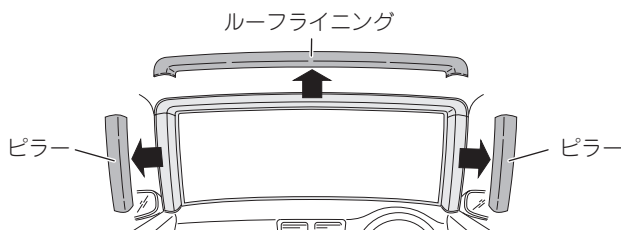
- フィルムアンテナはⒶ用で説明しています。

1 フィルムの仮位置を決める

フィルムアンテナの貼り付けの際、「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



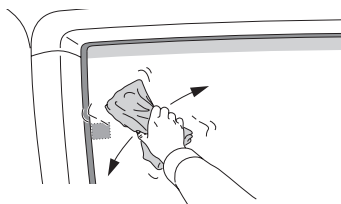
2 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。



注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

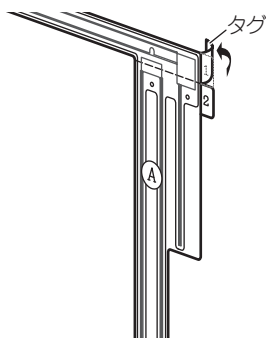
フィルムアンテナの取り付け

つづき

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 セパレーター 1 をはがす

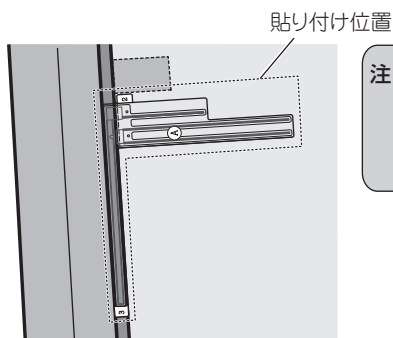
タグを持ってセパレーター 1 をゆっくりはがします。



※ セパレーター 1 をはがしたあとは、粘着面に触れないでください。

7 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、フィルムに空気が入ったり、シワが寄らないようにゆっくりと端から貼り付けます。また、一度貼り付けたフィルムをはがしたり位置を変えたりすることはできません。

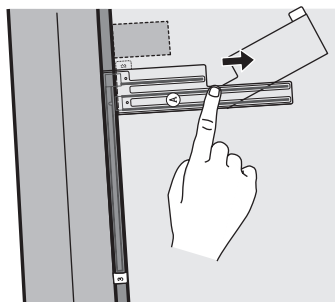


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

※ ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

8 セパレーター 2 をはがしながらエレメントを貼り付ける

指でエレメントをガラス面に押しつけながらセパレーター 2 をはがしてください。



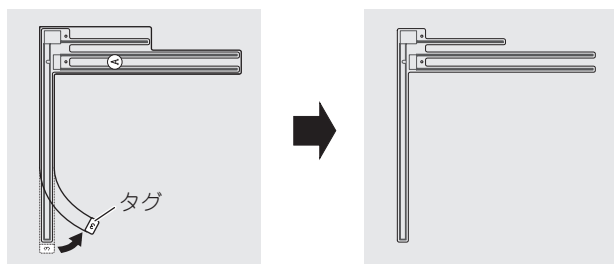
注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

※ 手順 12 でアンブを貼り付ける部分には触れないでください。

9 残りのフィルムアンテナも同様に貼り付ける

10 保護フィルム 3 をはがす

エレメントがガラス面に貼り付いていることを確認しながら、タグを持って保護フィルム 3 をゆっくりはがします。



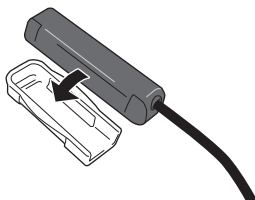
エレメントだけが貼り付く

※ エレメントが保護フィルム 3 と一緒にはがれる場合は、保護フィルム 3 を元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

フィルムアンテナの取り付け

つづき

11 アンプの保護カバーを取り外す

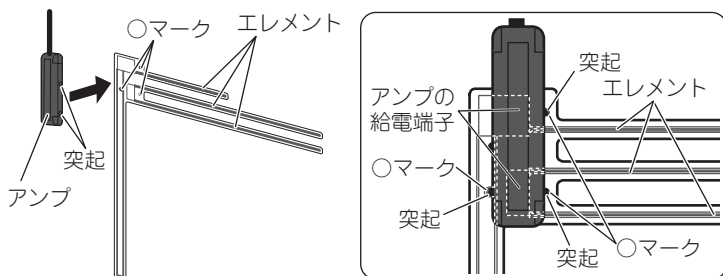


12 アンプをエレメントに貼り付ける

アンプの裏シートをはがして、エレメントの給電端子接触部の○マークと、アンプの給電端子の突起を合わせるように貼り付けます。

組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。(P.23 ページ)

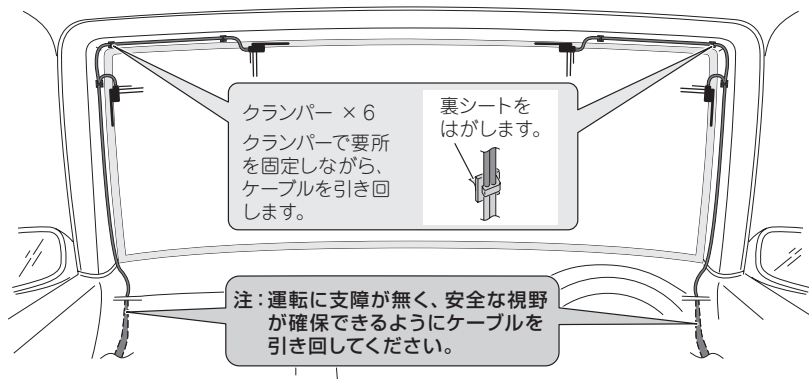
アンテナケーブルにある番号を確認のうえ、手順 13 に記載しているイラストどおり貼り付けてください。



注：フィルムアンテナの○マークとアンプ部の突起を合わせないと、受信できません。

注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

13 ケーブルを引き回す



注：危険ですので、運転席の足元付近は、配線を引き回さないでください。

14 内張りを元に戻す

注：アンプのケーブル根元部に負荷がかからないように注意してください。

接続・取り付けの確認を行う

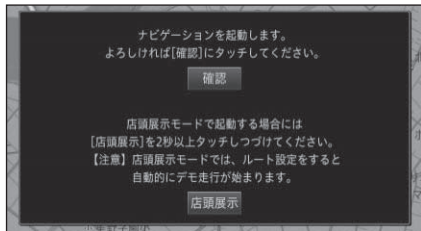
接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

1 車のエンジンをかける

メモ

- 車種によっては、専用のバックカメラを接続してエンジンをかけると、シフトレバーをバックに切り換えなくてもバックカメラの画像が表示されることがあります。その場合は、「NAVI」を押してバックカメラの映像を解除し、カメラ設定の【バックカメラ切換極性】(※ 33 ページ)で「LOW」を選んでください。

2 次の画面が表示されたら確認にタッチする

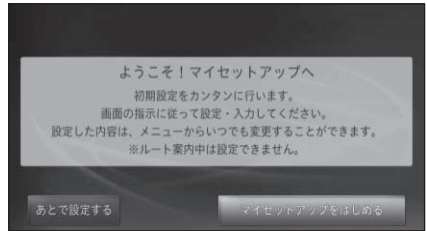


この画面は、初期学習が完了していないときにエンジンをかけると表示されます。

ご注意

- **店頭展示**にタッチしないでください。タッチしてしまった場合は、一度車のキーを抜いてから、エンジンをかけ直してください。

3 次の画面が表示されたらあとで設定するにタッチする



4 「メニュー」-「情報」-「システム情報」-「接続状態」の順に操作する



5 接続状態を確認する (※次ページ)



6 接続状態を確認したら、「NAVI」を押す

接続状態画面の見かた

接続状態画面は3ページあり、**次ページ** / **前ページ** で切り換えることができます。同梱部品の接続については、「標準接続 1」と「標準接続 2」で確認できます。別売製品の接続については、「オプション接続」で確認できます。

【標準接続 1】

車速パルス：

車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発信音が出て、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速 5 km/h 程度）で行ってください。車速パルスが検知できない場合は、[測定不可]が表示されます。

電源電圧：

車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に 11 V ~ 15 V の範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。なお、表示誤差（± 0.5 V 程度）があるため、この表示は参考値です。電源電圧が検知できない場合は、[測定不可]が表示されます。

イルミネーション：

イルミネーション（橙 / 白リード線）の接続状態を確認できます。車のライトを点灯させてください。ライトを点灯すると [ON]、消すと [OFF] が表示されます。

バック信号：

バック信号入力（紫 / 白リード線）の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけたブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーを R（リバース）の位置から R（リバース）以外の位置にすると LOW から HIGH、または HIGH から LOW に切り換わります。バック信号が検知できない場合は、[測定不可]が表示されます。

パーキングブレーキ：

パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると [OFF]、かけ直すと [ON] が表示されます。

【標準接続 2】

GPS アンテナ：

GPS アンテナの接続状態と受信状態を確認できます。正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合には [未接続] が表示されます。その右側に表示されるアンテナマークで GPS アンテナの受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で 2 本以上バーが表示されていれば良好です。

測位状態

現在の測位状態（3次元測位 / 2次元測位 / 未測位）が表示されます。その右側には測位に使われている衛星（橙色）と受信中の衛星（黄色）の数が表示されます。3 つ以上の衛星の電波を受信すると現在の測位が可能になります。


取付位置：

ナビゲーション本体の取り付け状態を確認できます。必ずエンジンをかけた状態で停車して確認してください。停車時に [振動許容範囲外] が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付けて、停車時に [OK] が表示されるのを確認してください。また走行後に [取付角度許容範囲外] が表示された場合は、ナビゲーション本体の取付角度が許容範囲外です。販売店にご相談ください。

Bluetooth 機器 1 / 2：

本機に登録した Bluetooth 機器※ 1（1 台目 / 2 台目）の接続情報（接続機器名、Bluetooth デバイスアドレス、使用プロファイル、電波強度※ 2）が表示されます。

※ 1 Bluetooth 機器の登録について、詳しくは「取扱説明書」-「お使いになる前に」をご覧ください。

※ 2 ナビゲーション本体と Bluetooth 機器間の電波強度（リンク強度）を示します。現在地画面や AV ソース画面右下に表示される Bluetooth のアンテナマーク  は、ハンズフリー接続している Bluetooth 機器の基地局からの電波の受信強度を示します。



接続・取り付けの確認を行う

つづき

【オプション接続】

ETC/DSRC ユニット：

ETC ユニットまたは DSRC ユニットの接続状態を確認できます。必ずセットアップしてから確認してください。正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合には [未接続]、エラーがある場合はエラー番号が表示されます。

車載器管理番号：

現在接続中の ETC ユニットまたは DSRC ユニットの車載器管理番号が表示されます。ETC ユニットまたは DSRC ユニットが正しく接続されていない場合は表示されません。

カード有効期限：

現在接続中の ETC ユニットまたは DSRC ユニットに挿入したカードの有効期限が表示されます。ETC ユニットまたは DSRC ユニットが正しく接続されていない場合や、機種によっては表示されません。

ビーコンユニット：

ビーコンユニットの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合には [未接続] が表示されます。

通信モジュール：

通信モジュールの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合には [未接続] が表示されます。

カメラ設定を行う

本機に汎用のバックカメラユニットを接続した場合は、カメラ設定を行ってください。
専用のカメラユニットを接続した場合は、自動的に設定されるため本操作は必要ありません。

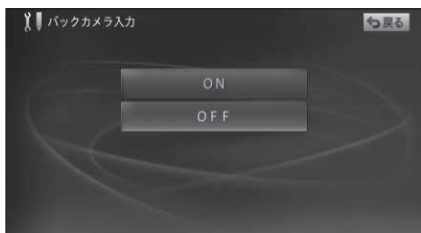
1 「メニュー」→設定・編集→システム設定→カメラ設定にタッチする



2 バックカメラにタッチする



3 バックカメラ入力 ON にタッチする



バックカメラを接続していないときは、**OFF** に設定してください。

4 バックカメラ切換極性 LOW または HIGH にタッチする



LOW : 接続状態画面 (P. 30 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたとときに「バック信号」の表示が [LOW] になる車両の場合はこちらを選びます。

HIGH : 接続状態画面 (P. 30 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたとときに「バック信号」の表示が [HIGH] になる車両の場合はこちらを選びます。

メモ

- 車種によっては、専用のバックカメラを装着してエンジンをかけると、シフトレバーをバックに切り換えなくてもバックカメラの画像が表示されることがあります。その場合は、「NAVI」を押してバックカメラの映像を解除し、バックカメラ切換極性で [LOW] を選んでください。

5 終了にタッチし、「NAVI」を押す



AUX 設定を行う

本機に VTR などの外部映像機器を接続した場合は、AUX 設定を行ってください。

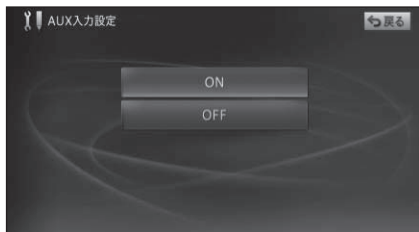
1

「メニュー」→設定・編集→
ソース別設定→AUX 設定にタッチする



2

入力設定→ON にタッチする



VTR などの外部映像機器を接続していないときは、OFF に設定してください。

3

終了にタッチし、「NAVI」を
押す



リアモニター出力設定を行う

本機にリアモニターを接続した場合は、リアモニター出力設定を行ってください。

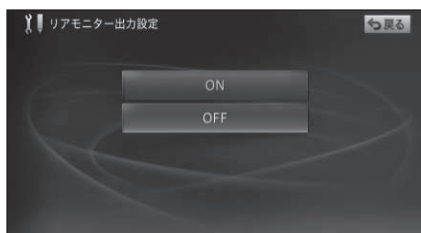
1

「メニュー」→設定・編集→**システム設定**→**その他設定**にタッチする



2

リアモニター出力設定→**ON**にタッチする



リアモニターを接続していないときは、**OFF**に設定してください。

3

戻るにタッチし、「NAVI」を押し

メモ

- AVソースがONの場合は、設定を変更することができません。AVソースをOFFにしてから操作してください。

センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了し、走行を開始すると本機は自動的に 3D ハイブリッドセンサーの初期学習を行います。その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてください。

<走行開始後のエラーメッセージ>

- **【車速信号線が外れました。接続を確認してください。】**
- **【車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。】**
ピンクリード線（車速信号入力）の接続先および接続状態を確認してください。
- **【3Dハイブリッドセンサーが正常に動作していません。本体の取付け角度や向きを確認してください。取付けが正常な場合は、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください】**
「ナビゲーション本体の取り付け（☞ 17 ページ）」を参照して、取付角度が間違っていないか確認してください。取付角度が正しい場合は、内蔵センサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。】**
ピンクリード線（車速信号入力）を接続してください。接続すると、3D ハイブリッドで初期学習をやり直します。

<その他のエラーメッセージ>

- **【測位不能になりました。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
ナビゲーション本体の故障、劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【GPS アンテナが接続されていません。接続を確認してください。】**
- **【GPSアンテナが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
GPS アンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【内蔵のセンサーが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
内蔵のセンサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- **【取付け位置の変化を検出しました。センサーの再学習を開始します。】**
本機の取り付け位置の変化を自動で検出した事をお知らせするメッセージです。